

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4171400205 | | |
| 法人名 | 有限会社 ケア・サポートKSN | | |
| 事業所名 | グループホームおうち | | |
| 所在地 | 佐賀県唐津市相知町平山上乙1196-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年9月22日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年1月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 公益社団法人 佐賀県社会福祉士会 |
| 所在地 | 佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号 |
| 訪問調査日 | 平成25年10月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人にとって、安心できる家庭的な生活の場。家族にとって預けて安心、優しくなる環境。職員にとって、働きやすい明るい職場。のどかな自然環境、光と風、緑の美しさなど癒しの環境。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた環境にあり、季節を感じながら過ごすことができるホームである。入居者が安心して過ごすことができるよう職員は支援に努め、入居者はゆっくりとした時間の中で穏やかに生活している。月に1回地域の方との交流会を実施し、その際は多くの地域住民の来訪がある。また、近隣施設との連携も十分に取り、「利用者の尊厳と地域との共生」という理念のもと、入居者の暮らしがより良くなるよう日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 日々の申し送りの中で、理念と基本方針を読んで理念を共有し実践につなげられるように努めている。 | ホームの理念と基本姿勢を日々の申し送り時に唱和することで、職員全員で共有し実践につなげている。また、月1回の会議においても理念の振り返りがなされている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 天気の良い日には必ず、利用者全員が庭先へ出て、地域との繋がりがあがる環境を作っている。また、月に一度定期的に地域の高齢者を呼んで交流会を行っている。 | 月に1回地域の方の来訪があり、交流会を実施している。また、地域の行事や近隣の小学校の行事への参加もあり、日々の散歩の際は地域の方と積極的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症について講演会を行ったり、視察研修等も受け入れている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームでの状況報告を行いながら、地域の情報収集や意見交換をしている。メンバーが固定化する中で、地域の方で定期交流会に参加されている方々に入っていたりなどの工夫、検討している。 | 2ヶ月に1回開催し、入居者家族や地域住民、地域包括支援センター職員等が参加している。そこでは状況報告や活発な意見交換がなされ、出された意見をサービス向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 唐津グループホーム連絡会を立ち上げ、唐津市内のグループホームとの連携や行政との連携も行っている。また関連施設に宅老所があるので協力関係が築けていると思われる。 | 市の担当者とは日頃から連絡を密に取り、気軽に相談できる良好な協力関係を構築している。また、唐津グループホーム連絡会に参加し、市内の事業所同士でも連携している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中どんな利用者がいても、玄関のカギは開けている。処遇会議や申し送りなどで、日ごろから拘束しないことを職員に伝えている。利用者の安全確保のために抑制が必要な場合は必要最小限の抑制を行い、早急に抑制が解除できるように検討、実施を行っている。 | 玄関の施錠を含め、身体拘束は一切していない。身体拘束をしないケアについても、月1回の会議や申し送りの際に確認することで、職員全員が正しく理解している。また、身体拘束に関する外部研修へも積極的に参加している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待についての研修会に参加させたり施設内の研修等を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会に行く機会を作っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前に利用者家族にある程度説明し、契約時に十分な説明を行い質問、疑問等の聞き取りを行い不安が無いように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族面会や職員の処遇会議のとき、地域の方々が来られる交流会の時など意見等ないか声をかけている。 | 面会や交流会、運営推進会議の折に家族等の意見を聞き、それらを運営に反映している。その際は、家族が意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。また、玄関には意見箱を設置している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に一度処遇会議の場で意見、提案の聞き取りをおこなっている。 | 月に1回の会議時等に職員の意見や提案を聞き、それらを検討し運営に反映している。意見を言い易い雰囲気づくりがなされており、随時個別相談を実施している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 必要に応じて、個人面談を行い就業意欲や研修への意欲その他勤務状況について話している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内研修を月一回、唐津グループホーム連絡会による研修会への参加や実践者研修にも参加させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 毎月、唐津市内のグループホーム仲間が集まって研修会や意見交換の場を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居が決まったら、本人の困っていることや不安な点を聞き、安心につながるような支援ができるように心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族が困っていることを聞き、要望に応じることができるように、利用が決まった時や家族が面会に来られるたびに意見や要望がないかなど話しやすい環境を作っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の心身の状態把握に努めるために、本人の状態観察とともに家族への聞き取りや医療機関からの情報提供を受けている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家族や本人が負担がかかっていると感じさせないように、職員は代弁者としてお互いの思いを伝えるようにしている。家族との絆が安心にもつながると思う。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 介護しているという考えよりも、お世話させていただいてます、という気持ちを持ちながらも家庭的な関係が築けるような明るく楽しい雰囲気づくりを行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの物を持ってきていただいたり、馴染の方にまた来ていただけるように、お願いしたり、一部の方ではあるが馴染の場所へお連れしたりしている。 | 友人や知人の方の来訪があり、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。また、自宅や実家への訪問、地元の祭事への参加、馴染みの美容室への訪問等、馴染みの場所との関係も途切れないよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者が孤立しないように声をかけたり、利用者が気まずい関係にならないように職員が間に入りその場の雰囲気を変えるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用契約が終了しても、お便りを送ったり、いつでも相談や遊びに来ていただけるようお話している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | できる限り、本人の思いや意向が把握できるように、本人や家族から話をきいている。 | 本人や家族から話を聞くことで、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、言動や様子、生活歴等の情報を基に職員全員で本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 職員には日ごろから、利用者の生活歴や馴染みの暮らし方など理解するためにカルテを見たり、家族や本人とのかかわりの中で情報収集しサービスに生かすように指導を行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人を見て個別の支援ができるように、個々にあった日課を設定している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスを行い職員からの意見を聞いたり、家族からの意見を聞くなどして介護計画を作成している。 | 本人や家族、職員等で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。また、必要な時には計画を見直し、現状に即した計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録の他に、個別ケアチェック表、個別支援経過記録、ケアプランなど職員がいつでも見ることができるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 定期的に利用者の状況や写真を添付するなどの報告をするほか、何か変化があれば電話やメールで連絡し対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 緑豊かな地域資源を活用し、外に出て自然を満喫している。農作業やご近所さんと会話など、安全でのどかな暮らしを楽しんでいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力病院との連携ができており、契約時にかかりつけ医から協力病院への変更は適切にできている。専門医の必要な利用者にはその都度専門医の受診ができるように家族が望む医療施設に紹介してもらっている。 | 契約時に説明の上、入居者全員が協力医療機関に受診し、通院支援がなされている。協力医療機関とは、往診や24時間対応できる協力体制ができています。また、かかりつけの専門医への受診も支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員の中に看護師がいることで、日常的に利用者の状態把握ができ、適切に医療機関への調整ができています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 協力病院が、関連機関であるため適切な連携が図れている。入院退院に関しても、利用者や家族が不安にならないように配慮している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者の状態を家族へ伝える際に、重度化する状態であれば、その旨を適切に説明し今後の経過方針等についても話し合い、家族が不安にならないように配慮している。 | 重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に説明している。実際重度化した場合には、本人や家族に対して状態等を十分に説明した上で医師等と話し合いを行い、方針を共有しながら支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生に対しての応急手当は日ごろからの訓練も必要であり、施設内研修や外部研修を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的な避難訓練と地域消防団との連携を築いている。 | 年に2回、昼夜を問わず避難訓練を実施している。火災以外の災害についても、マニュアルを作成し、避難場所等を確認している。消防署や地域の消防団、地域住民との協力体制も構築している。また、備蓄も十分に備えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇の研修や職業倫理についての研修を行い、利用者の尊重とプライバシー保護に努めている。 | 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応がなされている。排泄支援や入浴支援の際もプライバシーに配慮している。また、接遇に関する研修等を実施し、職員全員で共有している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 「今日は何食べたい?」「今日はお洋服にしますか?」など自己決定できるように働きかけるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日課を決めているが、日課以上にその人のペースに合わせた方が良い場合は、その人に合わせるなど臨機応変な対応をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 外出するときや定期的な交流会があるようなときなどは、おしゃれしたい人は薄化粧したり衣服を着替えるなど支援を行っている。また、散髪や顔そりなど定期的に行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と共に、庭先の畑を眺めては、野菜の成長を見て、収穫して、洗って、下準備する。また、食が進むように彩や盛り付け旬の物を出すなど注している。後片付けもできる範囲以内で利用者をお願いしている。 | 敷地内の畑で入居者と一緒に収穫した野菜や、地域の方から頂いた野菜を食材として食事提供している。好みのものを献立に取り入れたりと、盛り付けや彩りを工夫することで、食事が楽しみなものになるよう配慮している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスを考えて調理したかどうか分かるように食事献立に食材に記入をして職員全員が見るようにしている。食事チェックを行い、利用者の摂取量を把握し、栄養や水分確保に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後必ず口腔ケアできたかどうかチェックしている。利用者の状況に合わせて支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々に合わせた、おむつやパットを使用し、できる限り自立に向けた支援に努めている。また、トイレでの排せつを重要視している。 | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼夜を問わずトイレでの排泄支援や、排泄の自立に向けた支援がなされている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維の摂取や水分摂取に努めながら、排便チェックし、便秘が続くようならば早めに緩下剤の処方をするなどして利用者の苦痛を減らしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は週に3回と決まっているが、必要に応じてシャワー浴や入浴、清拭、手浴、足浴などを行っている。自力で入浴可能な方は夜の入浴も行っている。 | 2日に1回の入浴であるが、希望があればいつでも入浴できるよう準備している。また、入浴日以外は、手浴・足浴が行われている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人に合った休息時間をとっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が、個々の服薬内容を理解できるように分かりやすく記載している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ごぼうそぎが上手な人、踊りの上手な人、歌の好きな人など役割や楽しみごとの支援を心がけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出支援できるように心掛けているが高齢化が進みADLおよび理解度等も低下され誘って外出することのほうが負担となる方も多い。外気浴は日常的にしている。 | 日常的な散歩や外気浴の他、花見等の季節に応じた外出を行っている。また、地域の行事や馴染みの場所等、希望に応じて個別の外出支援も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | できるだけ買い物に誘ったり、支払ってもらうなどの対応を心掛けているが、現在利用者で対応できる方がいない。買い物に行く人がない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙を書ける人がいない。電話をとりつないで話すような利用者がいない。電話できる方は自由に電話してもらっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各テーブルや床の間などに季節の花を活けている。教養の空間はもちろん、窓からは騎士折々の風景を見る事が出来る。 | 共有空間には季節の草花や手作りの装飾品が飾られ、居間の窓からは四季の風景を楽しむことができる。畳の部屋では、昼寝や休憩等、入居者一人ひとりが思い思いに過している。また、居心地よく過ごせるよう音や温度等にも配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 教養の空間の中にも、ソファがあったり和室があったりして一人になれたり、お友達と気の合う方との関わりもできる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室にし、畳があり自宅の雰囲気づくりをしている。居室には棚があり使い慣れた物や写真馴染の物を持参してもらい居心地の良さを作り出している。 | 写真や絵画、家具、仏壇等何でも持ち込みが可能である。また、各居室には畳のスペースがあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者が安全に過ごせるように、キッチンからリビングと和室の見守りができる作りになっている。和室に座って洗濯物たたみや廊下での歩行訓練、テーブル拭きむなどしていただいている。 | | |